

| | | | |
|----------------|--|-------|-------|
| クラス番号 | 613 | 担当教員名 | 寺澤 法弘 |
| テーマ | 現代社会における精神保健福祉 PSW の視点からの取り組み | | |
| 著書・論文 研究課題等 | <p>【論文】「精神障害を持つ当事者におけるリカバリーに関する研究—N市内の精神障害者小規模作業所を利用する当事者への調査から—」（平成 17 年度修士学位論文） 「WRAP(元気回復行動計画)より得られる体験の意味—WRAP 名古屋の実践を通して—」日本福祉大学社会福祉学会「福祉研究」(第 105 号) 「WRAP(元気回復行動計画)集中クラス参加が、その後に及ぼす影響—集中クラス参加後の実態調査—」日本福祉大学社会福祉学会「福祉研究」(第 106 号)</p> <p>【研究課題】精神疾患当事者・家族におけるリカバリー、PSW の成長、</p> | | |

ゼミナール概要

キーワード：当事者からの学び、路上で生きる、リカバリー、PSW、WRAP、SST、SW の入口支援（司法福祉）

<私の原点> 私は学生時代に精神疾患を持つ人々と出会ったことから PSW の存在を知りました。PSW として働くためには「とにかく実習だ！」と考え精神科病院見学 30 ヶ所、精神科病院実習 4 カ所で合計 2 ヶ月行いました。社会福祉士実習は救護施設へ宿泊して行いました。結局、実習は全て精神保健福祉関連の施設で合計 3 ヶ月取り組みました。卒業後は PSW ではなく身体障害者授産施設に勤めたものの自分が働きたい場所とは違うと思うに至り退職しました。その時に北海道浦河町で活動する「べてるの家」の皆さんと出会い、そのまま押しかけて 1 カ月住み込みで滞在させて頂きました。今から 20 年前のことです。私の原点には学生時代と「べてるの家」で出会った当事者さん、家族、支援者の存在があります。皆さんにもゼミを活用することで人生を左右する人との出会いを体験して頂きたいと願っています。

<問題意識とゼミでの目標> 私たちの社会は精神疾患を発症した体験があることで自分の能力を十分に発揮することが難しい状況にあります。しかし「疾患を経験したからこそ体験できる事もある」「病気になれて良かった」と言う言葉や、多くの方がリカバリーの道を歩んでいるという事実もあります。支援者には「社会資源の紹介や調整」だけではなく「就労、就学、結婚、出産、育児」までを視野に入れた、その人の「人生」にかかわる専門性が求められています。ソーシャルワーク実践力を身につける為に資する機会を用意したいと考えています。

<ゼミで取り組むこと>（毎年、年度初めに内容・スケジュールの詳細を相談して決めています）

3年次 「クライアントと関わる力を身につける」「テーマ決定から執筆スタートへ（卒業論文）」

前期は個人面談、文献や新聞よりゼミ生個々が関心をもつテーマに関する発表会を実施します。夏季休暇中は前期の学びから卒論のテーマ設定を目指します。後期は各自の卒論作成に向けて各自が深めたいテーマについての学びを進めます。12月末は中間発表会を開催しますのでゼミ4年生に対して現状を発表して頂きます。他にも4年生とのコンパ、施設見学、ゲスト講師、事例検討、カンファレンス体験、WRAP クラス開催、SSTのスキルを身につける研修等を考えます。3年次末にはゼミ合宿（春期休暇）を実施します。*ゼミ合宿では体験型の学びを目指しており、2015年度は大阪市西成区の釜ヶ崎へゼミ合宿(2泊3日：路上で生きる方々の状況を現地で学びました。2017年2月にも実施予定)、過去には精神科病院への入院体験を行いました。

4年次 「卒業論文の完成」「国家試験受験対策」

3年後期より「時事問題」をゼミ生が毎回用意します。4年次ではゼミ生主体でテーマを絞った対策を行います。毎回ゼミ内で卒論経過の発表を行い、個別指導との併用で卒論の早期完成を目指します。SW実践力を身につける為には、大学外での出会いも欠かせません。私の実践であるSSTやWRAPの見学、研修会への参加、施設や家族会の見学、精神科医療機関で開催される行事等の機会を活用して下さい。

担当教員からのメッセージ



皆さんには他者と比較をすることで自分の安心を得るのではなく、自分がどのような行動をとるかを大切にして頂きたいと考えています。その上で、ゼミでは相互に学びあえる豊かな場になることを目指しています。私は現場で生きる当事者にかかわることが出来る SW の誕生を望んでおり、ゼミではそのお役に立ちたいと希望しています、PSW に限らず様々な分野への進路を考えている皆さんに出会いたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。